

<病害虫発生予察注意報第1号発表>

コムギ赤かび病が多発するおそれがあります

小麦の重要病害「コムギ赤かび病」は、多発すると品質が大きく低下します。そのため、ほ場をよく観察し、防除を適切に実施するとともに、適期の収穫などにより品質を確保しましょう。

- ◆対象品目 コムギ
- ◆対象地域 県内全域
- ◆根拠

- ・気象庁のアメダス気象データから、4月の「子のう殻形成好適日^{※1}」(表1)及び「子のう孢子飛散好適日^{※2}」(表2)を算出したところ、本年は、近年では発生が多かった令和5年と比較して好適条件が多く出現した。
- ・北信地域の一部の栽培ほ場において、5月18日に初期病徴が確認された。
- ・5月14日発表の気象庁の1か月予報では、気温は高め、降水量は平年並か多いとなる見込みで、コムギ赤かび病の感染に適した気象条件(高温・湿潤条件)が続くと予想される。

※1 コムギ赤かび病の原因菌が子のう殻(孢子をつくる器官)を形成しやすい気象条件となった日

※2 コムギ赤かび病菌が形成した子のう殻から、子のう孢子が飛散しやすい気象条件となった日

表1 子のう殻形成好適日数(4月)

アメダス観測地点	令和8年	令和5年	令和5年比
長野	9	3	300%
上田	8	6	133%
伊那	10	8	125%
松本	9	3	300%

表2 子のう孢子飛散好適日数(4月)

アメダス観測地点	令和8年	令和5年	令和5年比
長野	2	2	100%
上田	1	2	50%
伊那	3	1	300%
松本	3	2	150%



写真1 コムギ赤かび病の初期病徴(5月18日)

◆防除対策と留意点

- ・開花期から2週間程度が感染しやすい時期であり、この期間に曇雨天が続くと多発する。これまで防除を行っていない場合は、直ちに防除を実施する。開花期に防除を行った場合にも、その後降雨が続くようであれば、追加防除(1回目の防除の10~14日後)を行う。
- ・今後も、降雨により発病が助長される可能性があるため、適期に収穫し、収穫後は速やかに乾燥作業を行う。

◆問合せ先

- ・長野県農業試験場病害虫防除部 電話 026-248-6471(直通)
- ・注意報詳細 <https://www.pref.nagano.lg.jp/bojo/>



確かな暮らしを守り、
信州からゆたかな社会を創る

しあわせ信州創造プラン3.0

~大変革への挑戦「ゆたかな社会」を実現するために~

[長野県総合5か年計画推進中]

(問合せ先)

担当 長野県農業試験場
病害虫防除部 近藤、藤沢
電話 026-248-6471(直通)
FAX 026-248-6473
E-mail bojo@pref.nagano.lg.jp

(問合せ先)

担当 農政部
農業技術課環境農業係 上久保、笹川
電話 026-235-7222(直通)
026-232-0111(代表) 内線 3073
FAX 026-235-8392
E-mail nogi-kankyo@pref.nagano.lg.jp